



農業の担い手と暮らし を守る市政を

産業建設委員会（R7年度決算審査）

井上市議、農業支援・道路整備・ 川内港背後地開発をただす

令和7年度決算を審査した産業建設委員会で、日本共産党の井上勝博市議は、農業の担い手の減少、身近な道路や水路の整備、川内港背後地の開発について質問しました。

農業支援の成果を次の予算に

井上市議は、新規就農者数と離農した農家数を質問。市は、新規就農者は13人と答えましたが、離農した農家の全体数は把握していないと答弁しました。

繁殖雌牛を飼育する農家については、156戸で前年度から18戸減少し、飼育頭数も281頭減少したことが明らかにされました。

井上市議は、農業・畜産振興の予算を使った結果、担い手や農家数がどう変化したのか

農道・水路の継続要望約150件

農道や水路、ため池などの改修について、

A-1の危険から暮らしと平和を守れー日本共産党
が政府に緊急提言（2面）

施されず、翌年も継続して要望されると説明しました。

道路の維持管理でも、令和7年度の要望1506件のうち、約1割が翌年度に持ち越されています。井上市議は「要望を早く実施していただきたい」と求め、人員不足や事務手続きの遅れがないかをたどしました。

背後地開発の水・電力を確認

川内港背後地では、データセンターや資源循環施設、物流施設の立地に向けた調査・協議が進められています。北側道路も令和7年度に整備へ着手しました。

井上市議は、水と電力の使用量、供給可能量、制約条件をどこまで確認したのか質問。市は、令和7年度の段階では設計や機器の選

今週の「こちくら」は休みます。

国政と日本共産党の役割を語る
田村貴昭さんを迎え、10月25日に演説会
阿久根市外からもぜひご参加を

日本共産党薩摩西部地区委員会は、10月25日（日）午後2時から、阿久根市民交流センター「風テラスあぐね」で演説会を開きます。田村貴昭前衆院議員が、国政の動きと日本共産党の役割について語ります。川畑ふたみ市議会議員も、市民の声を届けてきた活動と、市政への思いをお話します。

物価高のもとで暮らしをどう守るか。平和といのちを大切に政治をどう実現するか。私たちの暮らしにつながる国政の課題を、一緒に考える機会です。

阿久根市で開く演説会ですが、市外のみならずにも広く参加を呼びかけています。「日本共産党の話を一度聞いてみたい」という方も大歓迎です。ご家族、ご友人とお誘い合わせ、ぜひお越しください。

日時：10月25日（日）
午後2時開会（午後1時30分開場）
会場：阿久根市民交流センター（風テラスあぐね）
主催：日本共産党薩摩西部地区委員会
お問い合わせ：
080-3996-0237（井上）

くらしに希望を 平和な未来をともに

日本共産党 演説会

あなたの声
が、政治を動かす
力に。

国政のこと
市政のことを
話します。

井上 田村 貴昭
前衆院議員

井上 川畑 ふたみ
市議会議員

日時 10月25日（日）
14時～（開場 13時30分）

会場 阿久根市民交流センター
（風テラスあぐね）

主催 日本共産党薩摩西部地区委員会 問合せ 080-3996-0237（井上）

くらし・平和・いのちを守る
政治を
一緒に！

AIの危険から暮らしと平和を守れ 日本共産党が政府に緊急提言

日本共産党国会議員団は10月1日、AI（人工知能）開発競争がもたらす危険から国民と人間社会を守るため、日本政府にたちに行動を求める提言を発表しました。

AIには、暮らしや社会の発展に役立つ可能性があります。一方提言は、人間の制御を離れた最先端AIが、サイバー攻撃や重要な社会基盤の破壊を引き起こす危険を指摘。軍事利用が戦争を拡大し、核戦争にまで発展するおそれがあると警告しています。

また、巨大企業が利益やコスト削減を優先すれば、リストラや賃下げ、労働条件の悪化につながりかねません。AIは本来、労働時間の短縮などに活用すべきだとして、雇用と労働者の権利を守る法整備を求めています。

国内では、開発・利用・投資にかかわる企業などへの調査・監督体制を整え、個人情報

国際協定と国内の監督体制を

提言は、米中など主要な開発国に最先端AIの開発の一時停止・禁止を求め、安全性の検証と人間による統制のための国際協定づくりを進めるよう要求しています。

エプロンおばさんの簡単クッキング（721）



トマトのピリ辛和風香味サラダ

【材料（2人分）】

トマト2～3個、ミョウガ2本、ショウガ10g、大葉4～5枚、塩少々。
〈合わせ調味料〉しょうゆポン酢大さじ2～3、七味唐辛子少々、オリーブ油大さじ2。

作り方

- ①トマトはへたを取り、大きめに切る。
- ②ミョウガは斜め薄切り、大葉は粗く切る。それぞれ水にさらし、水気をよく切る。ショウガは千切りにする。③ボウルに①と②、合わせ調味料を入れてあえ、塩で味を調える。

No. 86



シネマ太郎の映画評と案内

彦とベガ（2014）



彦とベガ



写真家ソール・ライター
急がない人生で見つけた
13のこと

介護士でもある谷口未央監督のデビュー作で、2014年公開の映画です。9月21日は「世界アルツハイマーデー」。日本では「認知症の日」。9月は認知症月間で、鹿児島県では「認知症から認知症まで」を「認知症を理解し一緒に歩む県民週間」としています。この映画は今年の県民週間との連動という形で上映されました。認知症の妻、その妻を自宅で介護する夫、訪問介護のヘルパー、そして夫婦の娘をめぐる人間関係を軸に苦悩と現実を描いています。「あなたがあなたをわすれても」。映画のポスターにこの文字。悲しくて、つらいことですが、でも、寄り添う温かさを感じます。里山の集落。古びた家で暮らす比古朝雄（川津祐介）と妻こと（原知佐子）。地学の高校教師であった朝雄は、妻・ベガ、自分は彦（彦星）と、お互いを呼び合います。認知症の妻は、自分の年齢は16歳だというのです。介護が難しくなり、ヘルパーにきてもらったのは菊名（柳谷一成）という介護事業所に勤めて日が浅い若い男。ことは最初は警戒しますが、次第に慣れ、菊名も介護の仕事になじんでいきます。やがて、ことは菊名の訪問を待ちわびるようになり、感情を出すようになりますのです。が、朝雄は不安を感じるのである。上映時間が1時間4分という短かさですが、多くを語り、静かで詩的な描写が、かえって深い印象を与えます。名優・川津祐介の遺作。そして、全身で演じる原知佐子が見事です。ミズノの吉田仁人（鹿児島出身）が重要な役で出ています。当時、中学生でしかありませんでした。残念ですが配信はないようです。またの上映に期待します。さて、気になる次の映画は、「写真家ソール・ライター 急がない人生で見つけた13のこと」（SONS、ガートンズシネマ）です。

や著作権の侵害、偽の画像・動画による被害を防ぐ措置を求めました。データセンター建設に伴う電力・水資源の大量消費や住環境への影響から、地域住民の生活を守ることと掲げています。

さらに、AIの軍事利用の中止と、政府やAI事業者から独立して安全性や社会への影響を評価・監督する第三者機関の設置を要求。開発競争を優先する姿勢を改め、被害を未然に防ぐために政治が責任を果たすよう訴えています。

中俣先生のつれづれなるままに（896）



←中俣先生のブログはこちら

私の庭には今、ピンク、深紅、黄色、黄色に赤の筋の入ったものの四種類のおしろい花が咲いている。昨年は、一本のおしろい花に、赤、黄色、黄色に赤の筋の入ったものの花が咲いていて、それはそれは愛でたものであるが、今年は猛暑のせいか花に勢いが無い。その代わり、サツシのすぐ目の前の軒下の、深紅のおしろい花が美女そのものの軒下で猛暑の影響を受けられないからであろう、それはそれはきれいで、私は歯磨きのたびにコップの水を与える。彼女は、ゆらりと揺れてお辞儀する。花は夕方夕方に咲き、明け方には目を閉じる。おしろい花に、今晩は今夜もよろしくねと、サツシ越しに声をかけると、花はそれに応じてかすかに揺れる。朝は朝で、闇の残る軒下に向かって、ご苦労さん、お休みと声をかけ、コップ一杯の水を恵む。花はそれに礼を言いつつ、一つひとつ眠りにつく。これが朝夕の日課で、あとは猫たちの世話。一日中付き合っていると、猫たちが何を考え、次はどうするか読めてくる。特にミーと私との間では会話が成り立つ。私は英語が苦手ですが上の大学にも不合格だった。しかし、猫との間ではなぜか話を通じる。しかし、チビの方はそうじゃない。判断が鈍いのである。いつも老人みたいにボロとしていて。何を考え、どう行動しようとしているのかさっぱり分からぬ。だからチビには用心深く構える。そんな一日一日で、私の黄昏は暮れていく。（詩愛好家）